

(様式第4号)

上田市地域クラブ活動推進協議会（令和6年度第2回） 会議概要

1 審議会名	上田市地域クラブ活動推進協議会
2 日時	令和6年12月24日 午後7時から午後8時30分まで
3 会場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出席者	池田泰司会長、小林邦朗副会長、齋藤 毅委員、佐野正樹委員、鷹野優子委員、 瀧澤利恵委員、竹田貴一委員、畠山正幸委員、緑川 篤委員、宮本恵美委員、 山崎浩成委員、 由井正史県東信教育事務所指導主事（オブザーバー）
5 市側出席者	酒井秀樹教育長、小野沢和也教育次長、清水嘉永スポーツ推進課長、 宮下広志スポーツ推進課スポーツ推進担当係長兼交流スポーツ担当係長、 小林 穰文化政策課長、宮下淳夫文化政策課係長、長田泰幸学校教育課長、 川俣将人学校教育課学校教育担当係長、福澤行雄学校教育課指導主事、 松崎知枝学校教育課学校教育担当主査、綿内美季学校教育課学校教育担当主査
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和7年 1月 6日
協 議 事 項 等	
1 開 会（事務局）	
2 教育長あいさつ（酒井教育長）	
3 会議事項	
（1）第1回協議会を踏まえた論点整理	
・事務局から資料に沿い、概要を説明	
（2）意見交換	
（委員）	今回示された案について基本的には賛成である。学校現場にもクラブを作りたい等の問い合わせがきている。二中と三中でも剣道クラブを作りたいとの声があり進める方向である。部活を廃止することを明確にしたうえで、地域での活動を考えているクラブがあれば申し出てもらい、いくつかあれば集約も含め検討をしていく必要があると思われる。 スポーツ少年団など既存のクラブと、今後、市の方針が決まれば動くと言っている新しいクラブがある。学校単位では活動できないところでは、複数校がエリア部活動として活動しクラブにつなげていくという現在の動きもあるので、この方向で進めてほしい。
（委員）	中学校の動きだが、単独ではチームができず合同部活動をやっている学校もある。地域移行をみすえ、去年、3校のサッカー部が合同で練習をし、来年4月からはその3校でチームとして中体連に出たいという話もある。他の学校でも、部員数は足りているが地域移行をみすえ近くの学校で固まってチームを作りたいと考え計画している。 上田市もこのような動きについて、先生や保護者に C 案を周知してほしい。保護者としては人数が足りているのになぜ合同にするのか、チームの人数が多くなると自分の子どもが大会出場できなくなるのではないかという思いもあるだろうが、B案はそもそも人数が確保できないと成り立たないし、今は人数がいても数年後にはそうでない。地域移行の意味をしっかりと話していくことが大事。そのために、市内にどのようなクラブがあるのか明確にし、子どもたちが選択できるようにしてほしい。
（議長）	学校の事情や現在のエリアごとの活動状況も考えると C 案が良いのではとのご意見であった。
（委員）	文化少年団は中学校の部活終了後に活動している。平日 18 時過ぎからと土日どちらかを中心にできる範囲で活動している。小学生が多く 5、6 年生や保護者は中学を見すえているが、中学年低学年の保護者は上に兄弟がいないとこの動きを知らない方も多い。 6 年生は中学生になったら部活に入るためにやめる子が多かったが、部活が廃止されるなら中学生になっても文化少年団としてそのまま活動することもできる。保護者たちの情報量の差が大きいので、保護者全体への情報提供、周知をお願いしたい。

- (委員) A 案の指導者は誰なのか。
- (事務局) この形を目指す熊本市は、市教委が任命した部活動指導員という非常勤の公務員が指導を行う。学校の部活動のままではあるが、指導者は教員から部活動指導員に変わる。
- (委員) B 案 C 案については、どこが統括するのか。
- (事務局) A 案については学校が中心となる。B 案 C 案については、次の議論の核になってくる部分であるが、運営主体を決めなければならない。運営主体については、国のモデルケースを見ると、行政、スポーツ協会、他市のように新たな組織を立ち上げる等様々な考えがある。各クラブの統制をとるため、運営主体を決める必要がある。
- (委員) 上田市でそういった組織を作る考えはあるのか。
- (事務局) 現時点で上田市が運営主体となる考えはない。
- (委員) 小学校には部活がないからスポーツ少年団に入る。中学部活動がなくなるなら小学校と状況は一緒ではないか。それなら今ある組織をもう少し展開していけばできるのではないか。現状で小学生がどのようにスポーツ、文化と関わっているか、どの組織がその子たちを指導できるのか市が把握してほしい。ただ、どこが統括するのかは一番の根本となる問題。部活動でなくなると行政で指導することができないのか。そこをしっかりと考えていただき説明があればわかりやすい。
- (事務局) 学校の部活動がなくなることなので、いつまでも行政が統括することは国も想定していない。小学生の活動スタイルをよく勉強すると展開イメージが湧くという御提案を受け止め、関係団体とともに進めていきたい。
- (委員) 中体連は、学校の先生で組織され大会運営等がされている。地域展開すると、クラブはあっても大会につながらないことや大会運営の人数不足が懸念されるのではないか。
- (委員) 今年は県全体で 160 チームのクラブチームが大会に出場した。今まで大会は部活動の顧問が組織を作り、専門委員長をトップとして専門委員会を開きながら運営していた。クラブチームの出場も増えてきたが、大会運営にも協力をするのが出場の条件となっている。今後中体連の大会をどうしていくかは県でもプロジェクトチームを立ち上げ協議中だが、北信越大会は令和 11 年度第 50 回までは今までどおり開催予定。地域展開が進んでいくので、今後大会運営もそちらに委ねる部分は出てくる。
- (委員) スポーツ少年団では人数がいらないため、小学校 6 年生と中学生が同じチームに入っているものもある。子どもたちは大会に出たいが中体連の大会には出られない。大会に出たいと思ったら、クラブチームの上位団体の大会に出ることになる。中体連がどこまで寛容に考えていただけるのか、考えをお聞きしたい。
- (委員) 中学校体育連盟なので、あくまで中学生の大会である。東信大会、県大会、北信越、全国と進んでいくため全国ルールに従っている。地域移行があるから、年齢要件が変わるかということではないと思う。
- (議長) 移行期の中体連の大会の在り方について県でも検討頂いている。上田市としては部活動がなくなること前提に進めていただければと思う。大きな方向性として提案いただいた案でよいのか。
- (委員) 方向性について、基本的な考え方は皆さんと同じで賛成である。何点か質問したい。既存団体がどのくらいあるのか、活動場所、指導者について調査はしたか。
- (事務局) 各競技種目について、スポーツ協会加盟団体とどのような動きをしているかの調査をしたところであり、御指摘の調査については把握しきれていない状況である。
- (委員) 現状が見えないとエリアごとどれぐらいの競技があるのかが分かりづらい。エリア、競技で見てマッチングさせ、上田市全体に子どもたちへの指導が行き渡るようにしてほしい。今、何も資料がない中で話をしているが、受け入れてくれる団体もあれば受け入れない団体もある。令和 8 年度末までの移行に向けて検討していきたいため、そういった資料もほしい。
- また、県からの指導者登録の通知が届いた。これは長野県の人材バンクのようなものなのかと思うが、登録の情報が県から上田市にも随時入ってくるようなものなのか。
- (オバザーバー) 11 月中に登録が始まり、現在のところ県内で 200 名弱ぐらいの登録がある。東信地区の方も多く、市町村へも近いうちに情報がいくと聞いている。
- (委員) 上田市独自でこのような人材バンクを作るのも良いと思う。

- (事務局) 独自の人材バンクを作っている市もある。県の指導者リストというのは、上田市がシステムを見られるものではなく、その時々登録状況は分からないため、今後地域展開を進める中で、指導者バンクを作ることも検討したい。今、回答はできないが重要な視点であるため御提案として受けとめる。
- (委員) 先ほど部会の話が出たが、メンバーには現場の指導者が入るのか。
- (事務局) 具体的に決まっていないが、推薦があれば教えてほしい。
- (議長) 保護者の皆様の立場としてはどうか。
- (委員) C案がよいと思う。今後議論も出てくると思うが、現在部活動にない活動はどう考えていくか。
- (事務局) 部活動にない活動であっても、スポーツ少年団、協議団体等にある種目もあるので、そこで中学生の指導をしていただく。ハンドボールやバドミントンなど、部活動にはないが現在クラブチームで活動している種目もあるので、組織を作っていただき参加を促したい。中学生のニーズはかなり多様なので、その時々合ったことができる環境を作っていければと思う。
- (委員) 上田市は平日休日を一体的に進めるとしているが、県からの児童生徒・保護者向けのチラシを見ると休日から段階的に移行となっているため混乱する。上田市の方針が決まれば、上田市独自のチラシを早く作った方が分かりやすい。
- (委員) 一番懸念しているのは生徒の移動である。中学生が単独で毎日活動場所に通うのは不可能なエリアもある。保護者が毎日送迎するのも難しい。月1回程度ならいいが毎日となると無理である。
- (事務局) 保護者の方の率直な意見として受け止める。昨年のアンケートでも移動、費用負担、指導については大きな不安要素になっていた。今後論点を整理しながら方策を示したい。
- (議長) 課題はたくさんあるが、大きな方向性としてはよいか。
- (委員) 文化系は、吹奏楽など楽器や練習場所の問題がある。学校を貸していただければよいが、吹奏楽や合唱などは音が出るため、場所も限られてくるがどう考えているか。
- (事務局) 今後議論いただきたいことにもなるが、運動系と文化系を同時に一律に進めるというのは無理である。方向性として、部活がなくなるといことはどちらも同じだが、スケジュールについては運動系と文化系で切り離して考えていく。いずれにしても地域で展開していくという方向。
- (議長) 子どもの立場を考えて、休日平日一体的に進めることについてはどうか。
- (委員) 休日と平日の指導者が異なると、指導の方針が異なることもあり生徒はやりにくい。休日平日一体で進めることが望ましいと思う。また、部活動が平日だけでも学校に残ればそれで十分という声もある。そうすると地域の方で休日の活動を進めてもそちらにはいかず、平日学校の部活動をやって休日は何もやらないという生徒も出てくる。新たなクラブを作りたいという思いがある方々がいても、子どもたちがいないと成立しない。
- (議長) 前回の協議会では長野市松本市も休日平日一体としているとの話もあった。
- (オブザーバー) 長野市は市がかなり予算をつけている。長野県内でいうと休日平日一体、休日から段階的とそれぞれである。どちらもメリットデメリットはあるため、一概にどちらが良いというのは言えない。ただ、休日なら指導できる人はある程度いるが平日できる人材の確保が課題である。上田市独自の人材確保をするために、周知を徹底するなどしてもらいたい。
- また、企業の活動も非常に注目されている。他県のケースだが、財政的な支援はもちろん人材的な支援についても、市町村と企業で連携し、勤務時間内に業務として部活動指導ができる制度を導入する企業もある。例えば消防団のように、企業が加入すると少し市の査定がアップするような制度がある市町村もあるそうだが、そういった制度も活用しながら企業等からの更なる支援を視野に入れ指導者確保に臨んでほしい。それとあわせて、商工会議所の方等を部会に入れるのも、違う視点での意見をもらえていいと思う。
- (議長) 子どもたちが問題なく活動できることを大切に、休日平日を一体的に進める。平日も今までのように毎日の活動はできないと思うが可能な範囲でこの方向で進んでいくということによいか。
- (事務局) ささまざまな課題はある。今おっしゃったように平日4日間活動するのは厳しい話で、4日間活動してほしいということではない。部活動ではなくなるので、新たな組織の中でできる範囲で活動してもらいたい。
- (委員) 子どもたちと接しやすいのは年齢に近い大学生だと思う。大学を入れていく発想はあるか。

(事務局) 現状では大学とは協議していない。

(議長) 可能性としてはあるか。

(事務局) 可能性としてはあるが、行政として話し合いをしていない。大学があるため、そういう意味では上田市は有利な場所だと思う。

(委員) 地域のスポーツ指導者は働いていて、仕事の後に指導されている。そういう指導者を派遣することは大切だと思うが見つけれないのが現状。個人的には、学校が終わってすぐにその学校内で、時間帯でいうと 16 時から 17 時位に活動し、19 時には家に帰る。その後ゆっくり過ごしたり勉強したりして 21 時から 22 時頃に寝るのが理想だと思う。

(議長) 学業が本分であるから選択肢として大事である。

令和 8 年度末を目途に休日平日一体的に地域に展開していく、運動部と文化部は別で考えていくということによいか。大きな柱 3 点について御意見をいただいたが、さらに要望や提案はあるか。

(委員) 先ほどサッカークラブの話題が出ていたため、そのことについてお話したい。活動するのは丸子北中、丸子中、依田窪南部中のサッカー部。練習日は火曜、木曜と土日のどちらか。火曜木曜は 19 時から 21 時または 18 時から 20 時の 2 時間。保護者の送迎が必要なためその時間帯になる。また、指導者も地域の方で、サッカー審判の資格を持っている方もいるが、16 時頃だと参加できない。場所は各校の中間地点である丸子総合グラウンド。今メンバーは 36 名。費用負担は 1 人 2,000 円で、それを照明代、ゴール、ユニフォーム等にあてている。コーディネートをしているのはサッカー部の顧問。子どものこと、地域のことをよく分かっている方でないと話は進んでいかない。来年 4 月からクラブとして活動予定である。

(議長) 大変参考になる例であった。様々な形が出てくると思うので参考にさせていただきたい。

(委員) 中学校部活動が対象になっているが、これは社会全体の大きな話である。先ほど働き方改革の話も出たが、これも教員だけではない。移動、指導者、活動場所の課題については、クラブ化すると社会体育の活動時間も関わってくる。教育委員会だけでなくスポーツ推進課がどう動いていくかも大事だと思う。中学生のスポーツだけでなく本当にもっと大きな話で、整理していかなければならないと感じる。先ほど、上田市の中にどんなクラブがあるのかという話も、教育委員会だけでは把握するのは難しいこと。スポーツ推進課の力も借りながら進めていければと思う。

(事務局) スポーツ推進課としても、スポーツ協会と連携し指導者確保についてどのように協力していけるか検討する。地域の方にもお願いするといっても資質や資格などもあり、我々も関わっていかなければと考えている。それぞれの地域のクラブチームについても情報提供していきたい。

(議長) 論点整理をしたうえで目指すべき方向性を決めてきたが、今お話を聞いていると単に中学校の部活を廃止するという話だけではないということが改めて分かった。地域や社会でいかに子どもたちを育てていくかという根本に立ち返ることができたと思う。

課題も多いが、子どもと大人が一緒になって新しい活動を進めていく非常に大きな転機になるのではないかという期待もしている。

確認だが、上田市の目指す方向として部活動の地域展開は休日平日一体に進めていくこと、地域クラブ活動の展開は令和 8 年度末を目途に進めていくということ、ただ様々な実情もあるためそれを踏まえて進めていく。進め方については、基本的には示していただいたグループ、A～C 案の中で、現場でも進んでいる C 案が妥当という方向であった。

新たに取り組まなければいけない点もいくつか御指摘いただいたので、これを踏まえ今後に生かしていただきたい。本日は様々な立場の方から御意見いただき活発な議論ができ感謝している。事務局ではいただいた意見に対しそれにどのような提案がなされるかということも含めて進めていただきたい。委員の皆様においては各団体に持ち帰っていただき、いろんな御意見が出るかと思うので、率直な意見を事務局の方に寄せていただきたい。

4 事務連絡 (事務局)

5 開 会 (事務局)